

H27年度 生徒・保護者・地域アンケート、教職員による自己評価結果から

1. 共通項目の結果の比較から見えてくるもの・考察と具体的な手立て・・・

(1). 生徒・保護者・地域アンケートと教職員による自己評価集計数

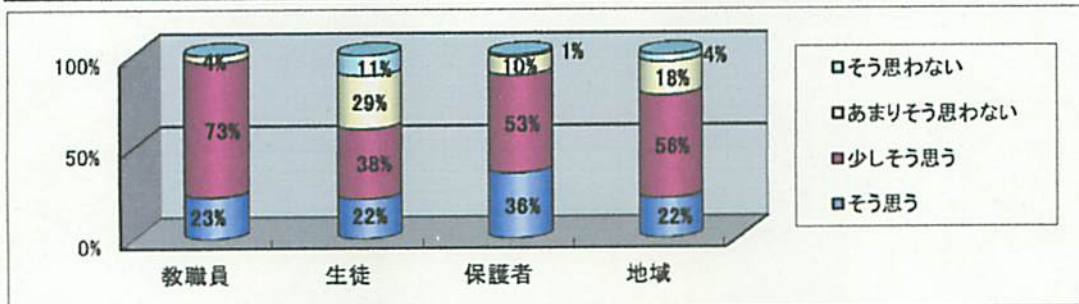
	在籍数	集計数	回収率
教師	23	23	100%
保護者	263	231	88%
生徒	263	249	95%
地域	78	78	100%
全体	627	581	93%

(2). 集計内容

※ 表内の数字は集計数を百分率(四捨五入)で表示しています。

① 布佐中は積極的に地域との連携を図っている。(生徒:地域の行事に積極的に参加している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	23%	73%	4%	0%	100%
生徒	22%	38%	29%	11%	100%
保護者	36%	53%	10%	1%	100%
地域	22%	56%	18%	4%	100%

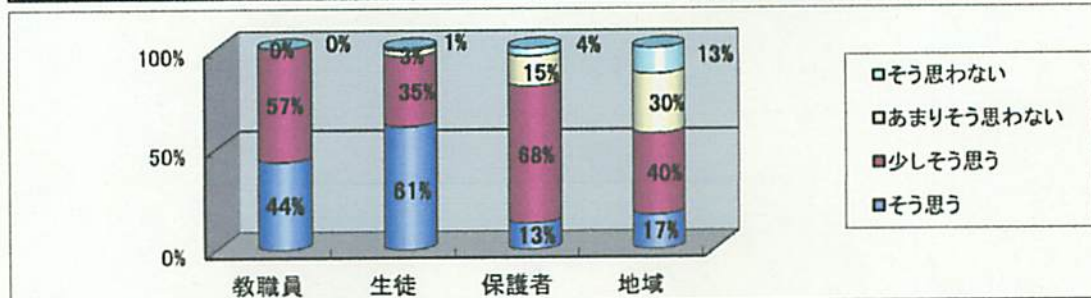


〈考察〉

地域と一体となった小中連携、小中一貫教育を進めていくにあたって、保護者や地域の方は学校が積極的に地域の行事に参加しようとしている認識がある。教職員は、昨年度と比較して30ポイント増加しており、自身のことも含めて積極的に入っていく指導や自身の態度がかなり醸成されてきている。

② 布佐中生は互いのことを気づかい思いやりの心にあふれている。(いじめ根絶に向けて努力している。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	44%	57%	0%	0%	100%
生徒	61%	35%	3%	1%	100%
保護者	13%	68%	15%	4%	100%
地域	17%	40%	30%	13%	100%

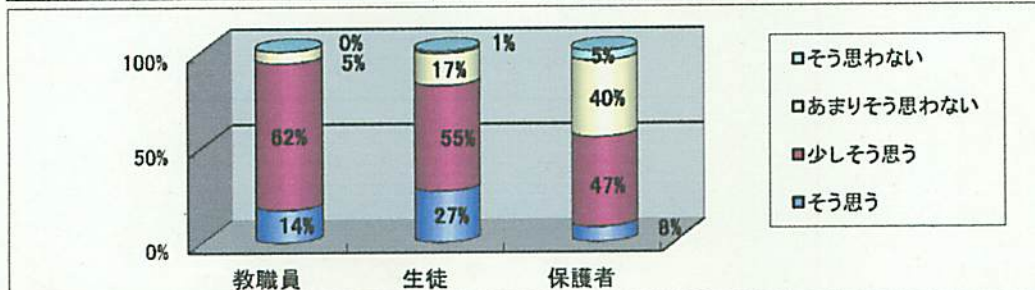


〈考察〉

昨年度と比較して、生徒からの評価は10ポイント、保護者からは11ポイント増加していることから、いじめのない学校づくりに教職員、生徒は努力しているという意識があり、安心して通える学校という認識が高い。地域からの評価から、さらに豊かな心の育成に向けた取り組みが必要と感じている。

③ 授業の内容は分かりやすい。(授業改善に向け方法や内容の工夫をしている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	14%	80%	6%	0%	100%
生徒	27%	55%	17%	1%	100%
保護者	8%	47%	40%	5%	100%

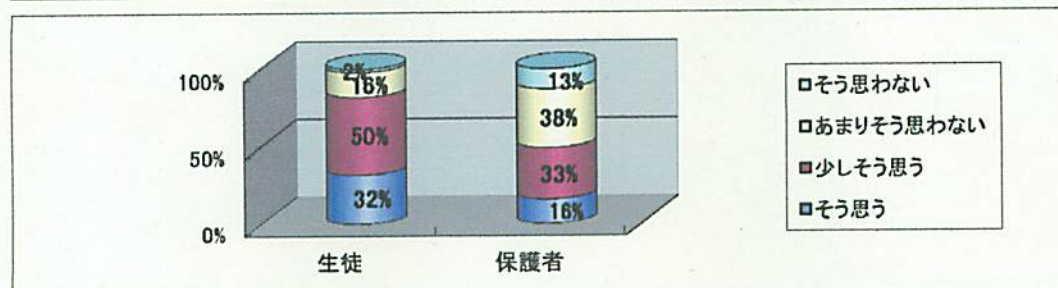


〈考察〉

全校体勢で「活動・協同的な学びのある授業」を推奨し、分かりやすい授業めざして教職員は授業方法の工夫や改善に向けて努力している。その結果、わかりやすいと回答した生徒は昨年度から比較して6ポイント増加、保護者も9ポイント増加した。学力向上のために、更に生徒主体の授業を続けていく必要がある。

④ 予習や復習など、家庭学習に熱心に取り組んでいる。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
生徒	32%	50%	16%	2%	100%
保護者	16%	33%	38%	13%	100%

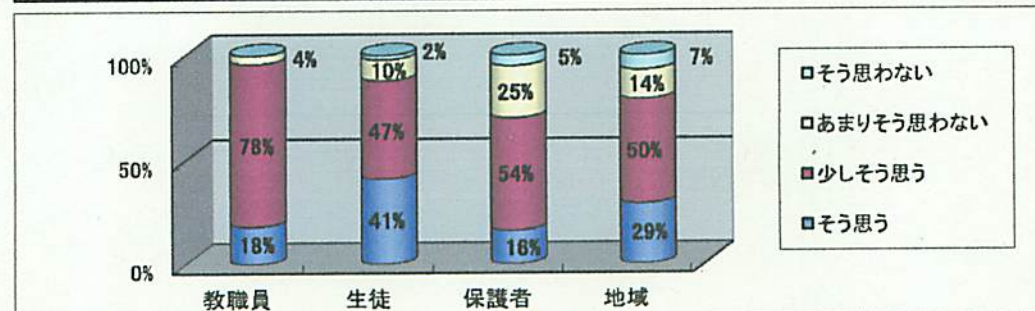


〈考察〉

保護者の過半数は予習や復習などの家庭学習が不足していると感じており、家庭学習の時間が不足していると感じている。しかし、生徒は生徒会が提案している「予習→授業→復習のサイクル」を意識しているためか、昨年度より取り組んでいる生徒が14ポイント増加している。

⑤ 布佐中生は登下校の時など挨拶ができ、挨拶にあふれる学校となっている。
(社会の一員としての意識を身につけた生徒を育成するための指導をしている)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	18%	78%	4%	0%	100%
生徒	41%	47%	10%	2%	100%
保護者	16%	54%	25%	5%	100%
地域	29%	50%	14%	7%	100%

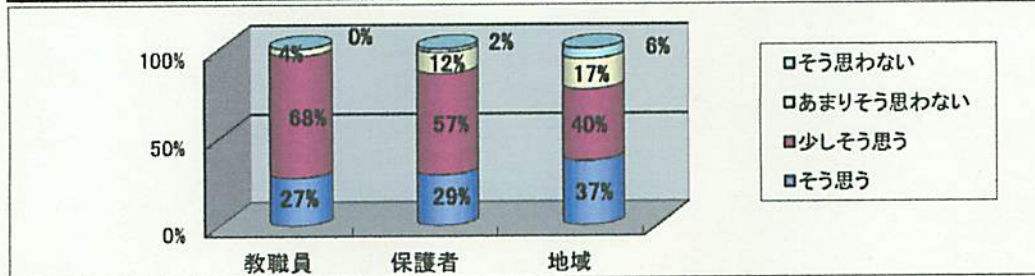


〈考察〉

登下校時の挨拶については、教職員・生徒ともに比較的十分にできている(指導している)と認識しており、地域からの評価も昨年度と比較して23ポイント増加している。小中高と地域で連携して実施している「あいさつ運動」などを今後も継続していく必要がある。

⑥ 学校HPや学校・学年だより等で学校の様子や情報を積極的に知らせている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	27%	68%	4%	0%	100%
保護者	29%	57%	12%	2%	100%
地域	37%	40%	17%	6%	100%



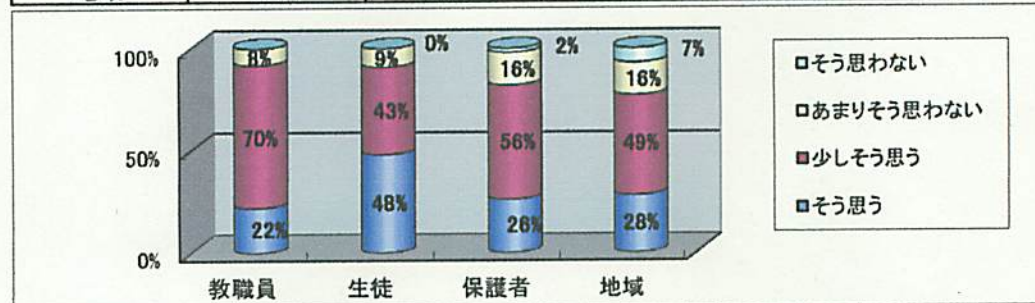
〈考察〉

学校ホームページの定期的な更新や学校だよりの全自治会への配布を続けていることが職員には評価され、昨年度と比較して11ポイント増加したが、地域からの評価は11ポイント減少した。自治会回覧の学校だよりについて、地域と学校との連携を定期的に掲載するなど、読んでもらう工夫がさらに必要である。今後も、学校ホームページを常に最新のものとするなど、学校の活動をPRLしていく努力をしていく必要がある。

⑦ 布佐中生は避難訓練に参加して防災や安全に気をつけて生活している。

(避難訓練の実施等を通して防災意識を育む教育をしている。)

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	22%	70%	8%	0%	100%
生徒	48%	43%	9%	0%	100%
保護者	26%	56%	16%	2%	100%
地域	28%	49%	16%	7%	100%

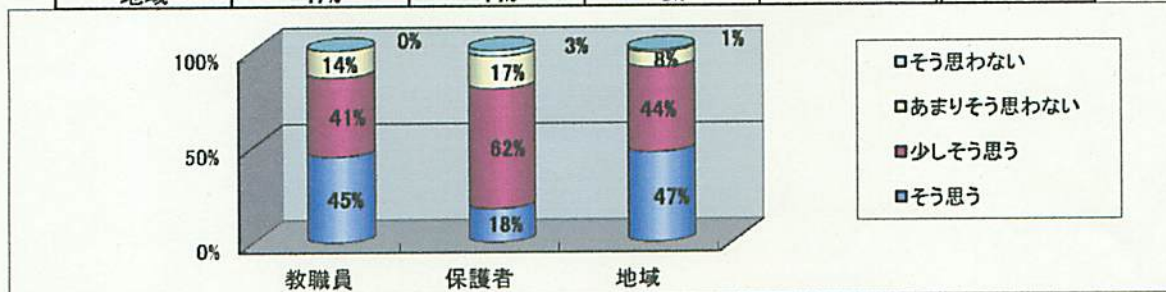


〈考察〉

地震と水害を想定した年間3回の避難訓練を実施している。また、本年度も1年生を対象に、我孫子警察署の協力を得て、自転車乗り方指導を実施した。昨年度と比較して、生徒からの評価は19ポイント増加しており、安全や防災への意識はかなり高まっている。しかし、保護者や地域からの評価は微減しており、自助・共助・公助の観点からも、地域を巻き込んだ安全・防災教育を企画していく必要がある。

⑧ 学校は特別に支援を必要とする生徒に対して個々のニーズに応じた教育的支援を行っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	45%	41%	14%	0%	100%
保護者	18%	62%	17%	3%	100%
地域	47%	44%	8%	1%	100%

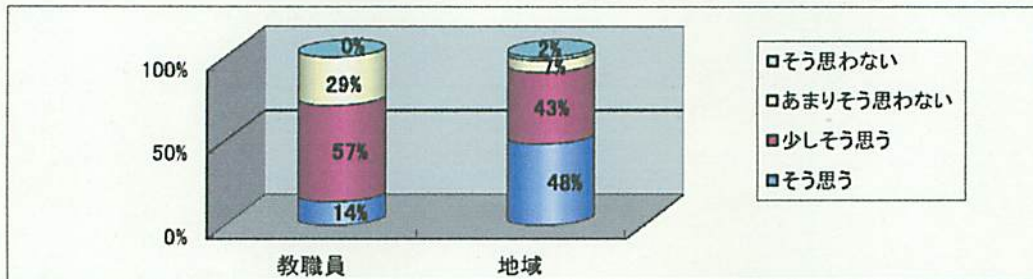


〈考察〉

数学の授業においては、全学年全学級のすべての授業でTT指導や個別指導を実施していることや、個別指導教室を昨年度より開設し、担当職員による個別指導を実施していることが地域からの評価が15ポイント増加した理由であると考えられる。しかし、教職員の中にも更なる充実が必要だと感じている職員もあり、保護者にもその実践についての説明が必要であるとともに、地域の学習ボランティアの協力を得るなど、特別な支援を必要とする生徒のニーズに応じた支援の充実が必要である。

- ⑨ 布佐中は、家庭や地域と連携し、一体となって生徒を育てており、地域と共に小中一貫教育の推進を図っている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	14%	57%	29%	0%	100%
地域	48%	43%	7%	2%	100%

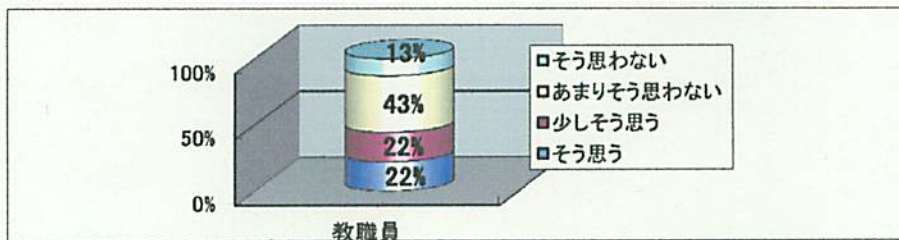


〈考察〉

地域ルームの有効活用や学校支援地域本部事業による学校花壇などの環境整備、数学・英語・家庭科・技術科を中心とした学習支援などが進められており、教職員の中にも学力向上のために必要であることが認識されてきている。今後は、小中3校のコーディネーターが連携した小中一貫教育に向けての取組が必要であると考えられる。

- ⑩ 読書・読書活動の充実のための取り組みをしている。

	そう思う	少しそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	計
教職員	22%	22%	43%	13%	100%



〈考察〉

昨年度と同様、教職員による自己評価のなかで最も達成率の低いものは、読書・読書活動の充実のための取り組みの推進に関してである。早急に、具体的に改善のための手立てを考える必要がある。単なる図書室の運営、国語科の指導にとどまらず、全教科・領域、教育活動全体での読書活動の推進のための取り組みを考えたい。

- PDCAサイクルの中の「自己評価」の位置づけと活用を図るには・・・
達成率(3.4評価の割合)が80%以下の項目についての改善策を
各分掌、各学年、各学級で具体的な取り組みの改善計画を立て、具体的な実践を図る。
- 職員の「協働」のための大切なツールとしての活用
各項目の評価と自由記述内容についての分析と活用を図るために
こういう考えがある・・・こういう相違点がある、共通点は・・・方向性の確認と共通理解